

事業の実績と具体的な成果（平成 21 年度）

- ① リメディアル教育科目の試行後のアンケート結果より、受講した学生から本科目実施に対する強いニーズ、およびその教育効果があることが明らかとなった。また、毎週型、集中型の試行方法による教育効果の違いには顕著な差をみることはできなかったため、本結果を参考に 22 年度よりリメディアル科目として「文章表現」は毎週型で開講することとした。
- ② 各学科が順次中心となり講義を行うことで、学生が自分の所属する学科の立場や社会的な繋がりを認識することができた。また、他学科の学生とコミュニケーションを図ることにより、広い視点で学問を捉えることができ学習意欲の向上に繋がった。さらには、履修学生から組織される「学生委員会」と教育支援委員会の意見交換の中から実習に対する多様な要望・提案があり、その内容を反映した実習を実施できた点については想定以上の教育効果と主体性の向上があったと捉えることができる。本結果を参考に 22 年度については、食農体験実習を 4 コースに分け開講することとした。
- ③ 教育支援委員会を定期的で開催したことにより、本事業が円滑に進み、また改善点や新提案を適宜議論したことで学生に対し効率的に本事業の主旨、目的を伝えることができた。
- ④ キャリアデザイン科目試行後のアンケート結果より、本科目受講後の学習意欲の向上及びコミュニケーション能力の向上が明らかとなった。また、集中講義方式での実施による効果についてもある程度認めることができた。
- ⑤ 全教員を対象に FD 研修会を実施したことで、フレッシュマン演習の教育方針や指導方法を始めた学生指導のスキルを身につけることができた。これにより学生は教員とより緊密にコミュニケーションを図ることができ、学習面、生活面において様々なサポートを受けることができるようになった。また、22 年度より開始されるフレッシュマン演習においても、学生がきめの細かい指導を受けられる体制が整った。
- ⑥ 初年次教育先進校の視察を行ったことで、本学に取り入れることのできる事例や本学での取組での改善点などを明らかにすることができた。これら視察で得た情報等を基に、学生達により効果的な初年次教育を実施することが可能となった。